

実践報告 (Report)

看護大学で学ぶ学生の「将来の職業に役立つ学びの促進」を目指した 授業の試みについて(1)

—「手書き A3課題」は看護職志望の学生の学びにおいても有意義たりえるか—

An attempt in class to enhance learning for the future career of the students in the training course of nursing: Is the “handmade A3 task” able to be useful in the students in training course of nursing?

服部次郎*

HATTORI Jiro*

キーワード：将来の職業に役立つ学びの促進, 手書き A3課題, 看護学生

Key words : Enhancing learning for the future career, Handmade A3 task, Students in training course of nursing

1. 研究の背景と目的

昨年度の実践報告において、今後は専攻等の異なる学生の授業においても A3 課題が有効であるかどうかを検討したい(服部, 2020)とした。椋山女学園大学教育学部では、主に保育・教育分野での就職を希望する学生を対象にしてきたが、現在は日本赤十字豊田看護大学で授業を担当しているため、看護分野で学ぶ学生にも「手書き A3 課題」を実施し、その効果を検討したいと考えた。特に、「手書き A3 課題」作成が将来の職業(看護職)に役立つような学びを促進する上で有効があると仮定して、授業を担当していた1年生の学生を対象にこの課題を実施することとした。

最近、「東工大の教養教育」という新聞記事が目にとまった。「東工大では2016年、改革の専門組織として『リベラルアーツ研究教育院』が創設されました。……新生は大講堂で、複数の有識者、専門家の講演を聴き、その後、教室で学んだことや気づいたことを新生どうしで出合います。……教室では3～4人で一組になり、お互いの膝の上に置いた円形の段ボールの板に紙を置き、思い浮かんだ言葉や考えを記します。考えを可視化して学びを深めるのです。……このクラスを指導した中野民夫教授は対話の意義を強調しました。同じ話を聞きながら違ったように受けとめる人がいる。その違いから、多様性を障害としてではなく、むしろ豊かさとして一緒に共同作業、コラボレーションできる人材になってほしい……」(2021年7月5日付け日経新聞朝刊)とあった。筆者はこの中で「考えを可視化して学びを深めること」や「同じ話を聞きながらも違ったように受け止めをする人がいることから、対話(討論)の場を設定することで、そのような違

いから多様性や豊かさを発見できるようになること」という点が特に大切で、大学の授業を進める上でも忘れてはならないと感じた。

筆者が担当している授業(社会福祉学)での A3 課題の作成やその過程におけるグループ討論も、この記事にあてはまる内容を持つのではないかと考える。例えば、A3 課題完成後の学生の感想文(以下、数字は自由記述の資料番号である)に「……入学してからの提出課題は PC で作る事が多く、手書きで作る課題は楽しく進めることができた。手書きで課題を行うと、下書きや文を考えるのに何度も書くことから自分の調べた事が記憶に残る。またイラストや図を入れる工夫をすることでより内容を理解することができた。この学習で、自分と違う意見を認め、相手との共通点を探し共感することができたと感じた。」(13)や「グループ討論も、人それぞれ、また、グループごとにも特色があって気づけなかった発見があり、グループワークの大切さも知れた。」(11)などであり、それがうかがえる。

2020年度後期の授業は、新型コロナウイルスの影響で遠隔授業という形で実施された。大学から提供されたオンラインシステムを活用し、15回分の授業を終了した。授業の中で、「里親制度」理解のために『ぶどうの木』という DVD 教材を活用した。教材の鑑賞後に、理解を深めるため、受講生 127 名を 13 のグループに分けて、教材をいろいろな角度から検討、討論し、最終的には A3 課題にまとめてもらった。この課題では、A3 用紙という白紙の表裏に、書き方の指示は最小限で、自分の好むようにまとめてもらった。オンライン授業という形態でもあったため、研究用の設問は 2 点に絞りアンケート調査を実施し、仮説(A3 課題に取り組み、まと

* 椋山女学園大学教育学部

2021年11月9日受付

めることは、「自分の将来の職業」に役に立つ」を検証するとともに、A3課題作成の際に、文字のみでなく図形やイラストなどの視覚的材料を活用することの効果やグループにより討論なども経たうで課題を作成することの効果についても検討した。

2. 研究の方法

アンケート用紙は特別に作成することはせず、手書きA3課題の中に下記のような簡単な設問等を組み入れ、筆者の授業「社会福祉学」（日本赤十字豊田看護大学1年生後期科目：必修科目）を受講する127名を対象に実施し、仮説の妥当性等を検討した。設問2(1)については、5つの選択肢を設け、5段階評価を採用し、選択肢5には5点、4には4点、3には3点、2には2点、1には1点を付与した。

A3課題（『ぶどうの木』のDVD教材利用）についての設問内容は、以下の通りである。

設問1 事例（『ぶどうの木』）を「手書きA3課題」としてまとめるという方法（個人のまとめ、グループ内討論なども含め）についてはどのように感じたか（自由記述）

設問2(1) 今回実施したA3用紙により課題に取り組み、まとめることは、自分の将来の職業に役立つと思いますか（5とても役立つ、4ある程度役立つ、3どちらとも言えない、2あまり役立たない、1全く役立たない）（番号に○をつける）

(2) 将来希望する職業（1看護師、2その他、3未定）

*1 授業の課題であるため、課題には氏名が記名されている

*2 研究用に使用するため、個人の名前は出さないが、使用することが困るという場合は申し出ること、と事前に学生に案内した。しかしその申し出はなかった

3. 結果

2020年度1年生の社会福祉学受講者127名から124名の回答を得た。A3課題が「役に立つ」とする学生が97%いる一方で、「役に立つ」とは考えていない学生は3%存在した。5段階評価で、平均値は4.5であった。

設問2(1) 今回実施したA3用紙により課題に取り組み、まとめることは、自分の将来の職業に役に立つと思いますか。

(%の数値は、小数点以下四捨五入)

5	4	3	2	1
とても役に立つ	ある程度役に立つ	どちらとも言えない	あまり役に立たない	全く役に立たない
68名 (55%)	52名 (42%)	3名 (2%)	0名 (0%)	1名 (1%)

設問2(2) 将来希望する職業（1看護師、2その他、3未定）の状況

1 看護師	2 その他	3 未定
119名	1名	4名
(96%)	(1%)	(3%)

設問1の自由記述の主なものについては、下記に記述する。筆者は「手書きA3課題」をまとめるという方法についてどのように感じたかを尋ねたが、この課題に関連して、グループ討論についても感想が述べられていたのでこれも含めて紹介をする。まずは保育・教育分野で学ぶ学生では見られなかった、看護の分野で学ぶ学生らしい記述からとりあげみたい。文中の番号は、個別の学生を表している。

「Wordでまとめていると自分で書いた文が文章としてぶれてしまった時に簡単に削除を行えたり文を移動できたりするのだが、手書きであると、1度書いてしまった文を消すのも付けたしたり移動したり出来ない。その為、非常に苦労した。しかし、今後、看護師として働くことになった時に、1つ1つの言葉が患者さんの命や症状に関わってしまう場面があると思う。そのような時にもし文や言葉を間違えても後で正せるから大丈夫と思いこんでしまったら大きな事件や事故に繋がってしまうと思う。そのため、今回手書きA3レポート課題で感じた文章や言葉1つ1つに対する緊張感を忘れないようにしたい。手書きで大変ではあったが将来に繋がる言葉や文章の重さや大切さを学べたのでこのような機会があって良かったと思っている。また限定されたスペースの中で、どのようにして自分の意見を強く、伝えられるかという工夫の仕方も学べた。今後役に立てることを手書きA3レポート課題を通して学べて嬉しく思う。」(1)

看護師という職業上、言葉・文章に対する強い思い、特にその内容が命にかかわることもありうるということでも大切にしていることが伝わり、また、「限定されたスペース」の中でいかに自分の意見等を伝えるかという工夫も学べたとあり、「手書きA3課題」の効果うかがわれた。次に、授業の中でグループ討論を採用したことなどについては以下のような記述がみられた。

『ぶどうの木』というストーリーを中心に行ったグループ討論は、他の人の意見をじっくりと聞けた有意義な時間であった。自分のグループだけでなく、他のグループのまとめも公開していただけたので、対面授業より広く意見を交換できたのではないかと思います。大学になって、レポートは100%Wordと言っても過言ではなかったのですが、今回の手書きA3課題はどのようにわかりやすくイラストや文字を配置しようかと工夫する過程が難しく、また楽しかったです。

テーマの自由度も高かったため、興味ある分野の情報を集め、記事を読んだことで、知見も広がったと思います。」(5)や「グループ討論も、人それぞれ、また、グループごとにも特色があって気づかなかった発見があり、グループワークの大切さも知れた。」(11)といったものである。この中で、グループ討論は、他の人の意見をじっくりと聞くことができ、また広く意見を交換できたため有意義な時間であり、また気づかなかった発見もあった、とグループ討論の効果について述べている。さらに課題におけるテーマも自由度が高かったため、興味ある分野の情報を集め、記事を読んだことで知見も広がったと述べ、テーマにおいて自由度が高いことの重要性についても言及している。

ここで学生のA3課題についての自由記述部分の内容を大まかに分けてみると、手書きA3課題を行うことについては、以下の結果であった。

- 1 将来、看護師になった時に役立つ：(1), (11), (17), (18), (19), (20), (21), (22)
- 2 楽しく取り組めた：(3), (5), (6), (7), (8), (9), (10), (11), (12), (13), (16)
- 3 達成感を感じることができた：(2), (8), (9), (10)
- 4 A3用紙という限られたスペースでの作業に意義を感じた：(1), (2), (6), (10), (15), (17), (19)
- 5 大変であった、難しかった、苦労した：(1), (2), (6), (10), (14), (15), (17), (19)
- 6 より深い内容理解ができ、他人に伝わりやすいもののできる工夫を学んだ：(2), (6), (12), (13), (14), (15), (23)
- 7 手書きの方が自分の思いがよりこもったものになったと思う：(3)
- 8 グループ討論の大切さが実感できた：(5), (11)

4. 考 察

仮説の「A3課題に取り組み、まとめることは、『自分の将来の職業』に役に立つ」については、97%の学生が役に立つとしており、平均値も4.5あり、支持されたと考える。昨年度は、相山女学園大学教育学部初等中等専修3・4年生の特別支援教育I（選択必修科目）受講者61名（回答のあったものは61名）に対して同様の質問をしたところ、98%の学生が役に立つとし平均値も4.6であった（服部 2020）。また一昨年度は、同じく教育学部保育初等専修2年生の社会的養護（必修科目）受講者81名（回答のあったものは78名）に対して同様の質問をしたところ、89%の学生が役に立つとし平均値も4.1であった（服部 2019）。このような結果からも、仮説は専修や学年の枠を超えて、支持されたものと考えられる。

次に、設問1の学生たちの自由記述（原文のまま）の内容から、A3課題の効果を具体的に検討する。主に上にあげた

1から6までをとりあげる。

第1点目は、97%の学生に支持された仮説の「自分の将来の職業に役に立つ」という点について、どういう点で、どのように役に立つと考えられたかを具体的記述からみえる。

1の「将来、看護師になった時に役立つ」に関する記述をまとめてみると、A3課題に取り組んだことで役に立つことは(1)患者さんの言葉1つ1つを大切にしつつ、正確に情報を集め、記録する、そして要約して関係者に伝達しなければならない事も多いため、決められたスペースでいかに分かりやすく相手が見やすいようにまとめるかが学べた、(2)患者さんに、何かを行うときに自分がどうすれば良いのか想像力をふくらませてアイデアを絞り出していかを学べた、などとあり、第2点目で取り上げた「楽しさ」や「達成感」を実感できたときの効果と同様、デシとフラスト（1999）のいう「生涯にわたる職業へとみちびく最初の力にもなりうる。」(p. 87)ということがわかるのである。

第2点目は、「楽しさ」や「達成感」についてである。これらに関しては、学生の記述の2や3の中で、「とても新鮮だなと思いました。なぜなら、他の科目では『A4用紙1枚分』といったレポートしか行ったことがなく、それが普通だと思っていたからです。しかし、今回この課題を行っていて、文字をひたすら書くのではなく、自分でレイアウトして書いていて、とても楽しかったです。また、自分が大切だと思った点が色をつかうことで、よりわかりやすく、見やすく示すことができるため、他人に伝わりやすい内容になりやすく、レポートをつくり終えた時は、達成感を感じることができました。」(8)や「普段はwordを使った文書作成なので、自分が見やすいようにまとめるということができなかったが、A3用紙に文と絵を使ってまとめることで、自分が伝えたかったことを誰にでも見やすくまとめることができると嬉しかったし、楽しく作成することができた。どこにどんなイラストを用いるか、どのくらいの字の大きさを書くのかを工夫するのが大変に感じたが、書ききってみるととても達成感を感じた。」(9)といった具合に、自分で工夫して書くことを楽しみ、読む相手に対して見やすく、分かりやすく課題をまとめることで、大変な点もあるが課題を作り終えたときには達成感を感じている。このように、課題にうまく対応できる力があると満足を感じることができ、この力が自分の将来の職業にも役立つと感じさせるのであろう。これは、デシとフラスト（1999）が「内発的動機づけがもたらす『報酬』は、楽しさと達成の感覚であり、(中略)その仕事をこなす力があるという感覚は、内発的な満足の重要な側面である。うまくこなせるという感覚それ自体が人に満足をもたらす。そして、生涯にわたる職業へとみちびく最初の力にもなりうる。」(p. 87)と述べていることとも一致している。

第3点目は、「A3用紙という限られたスペースでの作業」についてである。これらに関しては、学生の記述の4の中に、

「このレポートに取り組むにあたって、項目ごとに箇条書きで考察や調べた内容を書き出した。この過程は、スペースが限られている用紙にどの考察や内容を用いるかを客観的に見て、考え、取捨選択するためであった。字の大きさや絵の配置・考察のレイアウトを自分で考え、取捨選択する過程を経ることで、今まで以上に多くの視点からテーマ・課題について、考えを深めることができたと思う。」(15)や「将来看護に携わる者として、決められたスペースでいかに分かりやすく相手が見やすいようにまとめることができるのかはとても大切なことである。将来のためにも大事なことを学んだ。」(19)などがある。この課題レポートでは、使用できるのはA3用紙の裏表だけという「限られたスペース」であるため、否応なく取捨選択する過程を経ることとなり、今まで以上に多くの視点からテーマ・課題について、考えを深めることができたとしてA3課題を評価している。また将来看護に携わる者には、決められたスペースでいかに分かりやすく相手が見やすいようにまとめるかがとても大切で、将来のために大事なことを学んだとも述べている。ここでの学びは、デシとフラスト(1999)の実験結果にも通じるものと言える。この実験は「内発的動機づけを高める要因とはどのようなものか」(p.43)を考えるために行われたが、その結果、「ポイントは、意味のある選択が自発性を育むという点にある。人は、自ら選択することによって、自分自身の行為の根拠を十分に意味付けることができ、納得して活動に取り組むことが出来る。同時に、自由意志の感覚を感じることができ、疎外感が減少する。しかも、もし選択の機会が提供されるならば、人々は自分たちが一人の人間として扱われていると感じる。このように、選択の機会を提供することによって、問題をうまく解決することができるのである。」(p.45)と述べているが、A3用紙という限られたスペースでの課題作成に取り組む中で、取捨選択する過程、つまり選択の機会が与えられ、テーマ・課題について、考えを深めることができ、将来のためにも大事なことを学んだ、という思いを学生にもたらしたと言えよう。

第4点目は、「A3課題の大変さ、難しさ」等についてである。これらに関しては、学生の記述の5や6の中で「正直、手書きでA3レポート課題は大変であった。Wordでまとめていると自分で書いた文が文章としてぶれてしまった時に簡単に削除を行えたり文を移動できたりするのだが、手書きであると、1度書いてしまった文を消すのも付けたしたり移動したり出来ない。その為、非常に苦労した。しかし、今後、看護師として働くことになった時に、1つ1つの言葉が患者さんの命や症状に関わってしまう場面があると思う。そのような時にもし文や言葉を間違えても後で正せるから大丈夫と思いきってしまったら大きな事件や事故に繋がってしまうと思う。そのため、今回手書きA3レポート課題で感じた文章や言葉1つ1つに対する緊張感を忘れないようにしたい。手書

きで大変ではあったが将来に繋がる言葉や文章の重さや大切さを学べたのでこのような機会があって良かったと思っている。……」(1)や「ほとんどの科目レポートがA4で、かつ文字だけだったのに対して、今回のA3レポートは、自分でレイアウトを考え、どのようなまとめにするか考え、絵も取り入れ、読む人がわかりやすいと思ってくれるよう、たくさん調べたため、自分の理解が深まった。また、このレポートを書くためではなく、意欲的に気になったことを調べたりもした。初めての手書きレポートだったため、苦戦したが、きれいにまとめられて良かったと思う。またA3のレポート(手書き)が出きたときは、今回よりもわかりやすく相手に伝わるように作成したい。」(14)といった記述にもあるように、手書きA3課題はやさしい課題ではなく、大変であるが、努力して取り組めば、その結果将来に繋がる言葉や文章の重さや大切さを学べたり、また自分でレイアウトを考え、意欲的に調べたりすることで理解が深まることとなる。また手書きレポートだったため、苦戦したが、きれいにまとめられて良かったし、またA3のレポート(手書き)の課題が出された時は、今回よりもわかりやすく相手に伝わるように作成したいと、している。つまり、学生は将来につながる言葉の大切さを学び、さらに、意欲的に調べることで理解も深まり、苦戦しながらもきれいにまとめられて有能感を感じ、次に同じような機会があれば、相手に伝わるように作成したいとの意欲も示している。これはデシとフラスト(1999)の「有能感は、自分自身の考えて活動できる時、それが最適の挑戦となる時にもたらされる。ここでは最適の挑戦というのがキーワードになる。取るに足らないやさしいことができても有能感を感じることはできない。達成に向けて努力するときのみ有能感を感じるができるのである。」(p.89)という記述に通じるといえる。

最後に、先に述べた「東工大の教養教育」の記事の中にあった「考えを可視化して学びを深めること」や「対話の意義」に関連して、学生のひとつの記述を取り上げて、筆者のまとめを述べたいと考える。

「私にとって、今回の『手書きA3課題』はとても良い機会となった。なぜなら、パソコン上でレポートを作成する際に比べて、絵や色を添えて直筆で作成することでこのレポートを読んで下さる方や先生に、より一層私の感情が伝わると感じたからである。また、このレポートに取り組むにあたって、項目ごとに箇条書きで考察や調べた内容を書き出した。この過程は、スペースが限られている用紙にどの考察や内容を用いるかを客観的に見て、考え、取捨選択するためであった。字の大きさや絵の配置・考察のレイアウトを自分で考え、取捨選択する過程を経ることで、今まで以上に多くの視点からテーマ・課題について、考えを深めることができたと思う。そして、『ぶどうの木』の要点について、グループ・ワークを通じて『学びの要点を自ら見つけること』ができたと感じ

た。普段の授業では、要点や答えを受動的に学ぶことが多いが、今回は正反対の学びであった。私は『自らの学びの要点を見つけ、学習の興味・関心の幅を広げる』という過程こそ、今回の課題において最も重要な部分であり、今回の学びをこれからの学習に必ず活かそうと思う。」(15)

この記述は先に紹介した「考えを可視化して学びを深めること」の具体的な例ともいえる。そして課題の教材である「ぶどうの木」の要点について、「グループ・ワークを通じて『学びの要点を自ら見つけること』ができた」という点は、先に述べた「対話の意義」に通じるものと考えられる。さらに、「普段の授業では、要点や答えを受動的に学ぶことが多いが、今回(筆者注：A3課題を活用して授業)は正反対の学び(筆者注：積極的な学び)であった。私は『自らの学びの要点を見つけ、学習の興味・関心の幅を広げる』という過程こそ、今回の課題において最も重要な部分であり、今回の学びをこれからの学習に必ず活かそうと思う。」という記述は、まさに筆者がA3課題で目指していることのひとつを学生の立場から言語化してくれたものともいえ、感謝するばかりである。

謝 辞

本研究を進める上で協力をしていただいた学生の方々にお礼を申し上げます。

引用・参考文献

- エドワード・L・デシとリチャード・フラスト：『人を伸ばす一内発と自律のすすめ』 監訳：桜井茂男 新曜社 (1999)
- 服部次郎：「A3用紙という空間を通じて」 椋山女学園大学FD委員会活動報告書, 14: 47-48 (2014b).
- 服部次郎：「保育者・教師養成課程で学ぶ学生の『将来に役立つ学びの促進』を目指した授業の試みについて(1)―「手書きA3課題」を授業に活用することの意義―」 椋山女学園大学教育学部紀要, 12: 299-310 (2019).
- 服部次郎：「保育者・教師養成課程で学ぶ学生の『将来の職業に役立つ学びの促進』を目指した授業の試みについて(2)―「手書きA3課題」は遠隔授業においても有意義たりえるか―」 椋山女学園大学教育学部紀要, 14: 265-275 (2021).

(資料1：自由記述の前の番号は資料番号である) 2021年度用基礎資料(番号順)

○学生の自由記述

(1) 正直、手書きでA3レポート課題は大変であった。Wordでまとめていると自分で書いた分が文章としてぶれてしまった時に簡単に削除を行えたり文を移動できたりするのだが、手書きであると、1度書いてしまった文を消すのも付けたし

たり移動したり出来ない。その為、非常に苦労した。しかし、今後、看護師として働くことになった時に、1つ1つの言葉が患者さんの命や症状に関わってしまう場面があると思う。そのような時にもし文や言葉を間違えても後で正せるから大丈夫と思いきってしまったら大きな事件や事故に繋がってしまうと思う。そのため、今回手書きA3レポート課題で感じた文章や言葉1つ1つに対する緊張感を忘れないようにしたい。手書きで大変ではあったが将来に繋がる言葉や文章の重さや大切さを学べたのでこのような機会があって良かったと思っている。また限定されたスペースの中で、どのようにして自分の意見を強く、伝えられるかという工夫の仕方も学べた。今後に役立てることを手書きA3レポート課題を通して学べて嬉しく思う。

(2) いつもはwordを使って、文章のみでまとめることが多かったが、今回、A3用紙に絵を用いて、手書きでまとめたことで、自分の見やすいようにまとめることができ、絵でイメージしやすくなったことで、内容をより理解することができたように感じた。真っ白な用紙からスタートだったことで、余白の使い方や、どれくらい絵を予知イルカ、文章のバランスや文字の大きさなどの調節が難しかった。しかし、自分で1から構成を考えて作成できたことで、達成感を味わうことができた。

(3) 最近ではパソコンによる作業が主流になっているが、手書きの方が自分の思いがよりこもったものになったと思うし、自分の味が出るものになったのでよかったです。 (4) ……他の教科では、レポートもパソコンが多く、特に絵を描くといったことは無いので、難しかったですが、とても楽しく行えました。

(5) 「ぶどうの木」というストーリーを中心に行ったグループ討論は、他の人の意見をじっくりと聞けた有意義な時間でした。自分のグループだけでなく、他のグループのまとめも公開していただけたので、対面授業より広く意見を交換できたのではないかと思います。大学になって、レポートは100% Wordと言っても過言ではなかったのですが、今回の手書きA3課題はどのようにわかりやすくイラストや文字を配置しようかと工夫する過程が難しく、また楽しかったです。テーマの自由度も高かったため、興味ある分野の情報を集め、記事を読んだことで、知見も広がったと思います。

(6) A3用紙という限られた中でまとめて、尚かつ、自分で図をまじえながら手書きだったのでごう頭に入ってきました。……自分が分かるようにまとめると共に他人にも見て分かるようにまとめなければならなかったのが難しかったですが、楽しかったです。

(7) 大学の課題はWordを使うものがほとんどで手書き課題は新鮮でした。自分でレイアウトを考えるのは少し大変でしたがイラストや色を塗ってオリジナルのものを作り上げていくのは楽しかったです。また部屋で一人、オンライン授業

をしているのは少し寂しかったので、ブレイクアウトルームを使い、顔を合わせて話し合うのはとても楽しかったです。

(8) とても新鮮だなと思いました。なぜなら、他の科目では「A4用紙△枚分」といったレポートしか行ったことがなく、それが普通だと思っていたからです。しかし、今回この課題を行っていて、文字をひたすら書くのではなく、自分でレイアウトして書いていて、とても楽しかったです。また、自分が大切だと思った点が色をつかうことで、よりわかりやすく、見やすく示すことができるため、他人に伝わりやすい内容になりやすく、レポートをつくり終えた時は、達成感を感じることができました。

(9) 普段は word を使った文書作成なので、自分が見やすいようにまとめるということができなかったが、A3用紙に文と絵を使ってまとめることで、自分が伝えたかったことを誰にでも見やすくまとめることができるととても嬉しかったし、楽しく作成することができた。どこにどんなイラストを用いるか、どのくらいの字の大きさで書くのかを工夫するのが大変に感じたが、書ききってみるととても達成感を感じた。

(10) いつもはただひたすらパソコンでレポートを作成するだけだが、今回このように紙媒体で自分の言いたいことをまとめながら少しずつ作っていくのがすごく楽しかった。自分にはこういったやり方の方が「課題」という感じじゃなくて楽しめたのでやりやすいなと思った。まっ白な状態から完成まで行けたことに達成感を味わえた。

(11) 自分の自由な発想で記述していくのはとても好きなのでこの課題は楽しく行えた。またイラストを含んでいるということもあり、とても個性の出る課題であると思うので、他の人の課題も気になります。例えば、看護に関しても他のことに関しても基本何かを計画して自分がどうすれば良いのか想像力をふくらませてアイデアを絞り出していく。これが、今回の A3 課題について考えるのと同じだと感じた。グループ討論も、人それぞれ、また、グループごとにも特色があって気づかなかった発見があり、グループワークの大切さも知れた。

(12) 文章ばかりのレポートとは違い、自分の個性を見てもらうことができる新鮮な課題だなと思いました。手書きという形であるのも、その人の感情がとても分かりやすく読むことが出来るため良い課題だなと思いました。Word などで作るよりも時間がかかるものであるが、私はストーリーの理解を深めることが出来るため、楽しく取り組むことが出来ました。

(13) ……入学してからの提出課題は PC で作る事が多く、手書きで作る課題は楽しく進めることができた。手書きで課題を行うと、下書きや文を考えるのに何度も書くことから自分の調べた事が記憶に残る。またイラストや図を入れる工夫をすることでより内容を理解することができた。この学習で、自分と違う意見を認め、相手との共通点を探し共感すること

ができたと感じた。

(14) ほとんどの科目レポートが A4 で、かつ文字だけだったのに対して、今回の A3 レポートは、自分でレイアウトを考え、どのようなまとめにするか考え、絵も取り入れ、読む人がわかりやすいと思ってくれるよう、たくさん調べたため、自分の理解が深まった。また、このレポート書くためではなく、意欲的に気になったことを調べたりもした。初めての手書きレポートだったため、苦戦したが、きれいにまとめて良かったと思う。また A3 のレポート（手書き）が出きたときは、今回よりもわかりやすく相手に伝わるように作成したい。

(15) 私にとって、今回の「手書き A3 課題」はとても良い機会となった。なぜなら、パソコン上でレポートを作成する際に比べて、絵や色を添えて直筆で作成することでこのレポートを読んで下さる方や先生に、より一層私の感情が伝わると感じたからである。また、このレポートに取り組むにあたって、項目ごとに箇条書きで考察や調べた内容を書き出した。この過程は、スペースが限られている用紙にどの考察や内容を用いるかを客観的に見て、考え、取捨選択するためであった。字の大きさや絵の配置・考察のレイアウトを自分で考え、取捨選択する過程を経ることで、今まで以上に多くの視点からテーマ・課題について、考えを深めることができたと思う。そして、「ぶどうの木」の要点について、グループ・ワークを通じて「学びの要点を自ら見つけること」ができたと感じた。普段の授業では、要点や答えを受動的に学ぶことが多いが、今回は正反対の学びであった。私は「自らの学びの要点を見つけ、学習の興味・関心の幅を広げる」という過程こそ、今回の課題において最も重要な部分であり、今回の学びをこれからの学習に必ず活かそうと思う。

(16) この様な形でまとめるのはとても苦手なので、最初はどうかすれば良いのかわからなくて困惑したが、最後の方は楽しみながら行うことができた。改めて紙に整理してまとめてみることによって、自分の意見やグループの意見から「ぶどうの木」のストーリーを思い出して、学ぶことがたくさんあった。

(17) A3 課題としてまとめることで、この「ぶどうの木」の内容が整理される上、教材を視聴する際にどこがキーポイントであるのか、何を伝えたいのかを注意深く観察することが出来た。限られた紙に何を深く掘り下げて書けばいいのか、どうしたら相手に伝わりやすい、そして自分が伝えたいと思ったことを伝えられるのか、試行錯誤しながら作った A3 課題は私自身にとって良い経験になった。今後、看護師やその他の職に就いて働く上で、……今回学んだことが役立つと思われる。

(18) 手書き A3 課題はとても難しく、大変だと感じた。自分なりに分かりやすくまとめることが一番大変だったが、将来、看護師になった時に役に立つこともあると思うので、きれいに分かりやすくまとめられるようになりたいと思った。また、

こういう課題は絵やレイアウトがとても重要だと思った。この課題では、自分で様々なことを調べるので、授業で学ぶより詳しく学べて良かったと思う。

(19) A3に内容をまとめることによって、鑑賞して得られた情報や事実、自分なりの考えを明確にすることができた。自分の考えを言葉だけではなく文字にすることで目に見え、更に、そして改めて自分の意見を確立することができた。……また、将来看護に携わる者として、決められたスペースでいかに分かりやすく相手が見やすいようにまとめることができるのかはとても大切なことである。将来のためにも大切なことを学んだ。

(20) ドラマの内容を用紙にまとめるという課題はこれまでになく、大変であったが、まとめることで大切な点にも気付くことができ、学習することが多いと感じた。また、看護師は要約して伝達しなければならない事も多いと考えるため、まとめる力が必要になってくる。そのため、将来まとめる力が必要な看護師には良い訓練だったと感じた。

(21) 今回、この A3の紙に絵や、図などを使い、わかりやすく、

まとめて伝えるという課題のおかげで苦手意識が低くなり、これからもっと自分でも紙にまとめるなどして、人に伝えるようにしていきたいと思った。これから、看護関係の仕事に就くにあたってわかりやすく人に伝えるということはとても重要なことである。

(22) A3にまとめることによって、自分の考えをより明確にすることができたと思う。「ぶどうの木」のストーリーで、知らなかったことを調べることで、より自分の知識を増やす有意義な時間になった。グループ討論を行った上で、A3にまとめることは、正確に情報を集め、記録する看護師の仕事に役立つと考える。

(23) ……手書きで書くことにより、ただパソコンで文字を打っていくだけではできない、絵を描くことや、どのようにA3の紙を構成していくかを考えることができ、いろいろな工夫をすることで、オリジナルなレポートができるように感じた。そして、まとめることにより理解が深まるので他の教科でもこのようにまとめたいと考えた。